

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	平成20年10月3日
作成部署	建設交通部 河川課

事業名	古川 広域基幹河川改修事業	地区名	久御山町東一口～城陽市寺田地内
概算事業費	45,700百万円	事業期間	昭和46年度～平成44年度
事業概要	流域の上中流部に位置する城陽市から宇治市にかけて、高度経済成長期から著しく市街化が進行しており、たびたび浸水被害が発生しているため河道拡幅、河道掘削等による改修を行う。(L=13.5km)		
目指すべき環境像	流域が持つ歴史や文化、景観、自然環境を保全し、地域の特色を活かした良好な河川環境の整備を図る。		
関連する公共事業	直轄河川改修事業（宇治川）、京滋バイパス事業、新名神高速道路整備事業		

評価項目		選定要否	施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
主要な評価の視点					
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	—	当該河川はヨシなどが生い茂り、サギやカモなどの鳥類やコイやフナなどの魚類が生息している。改修後も動植物の生育の場として自然環境を保全する必要がある。	河川改修後はできるだけ現状の自然環境を守り、生態系を壊さないよう配慮した整備を図る。住宅が近接している場所ではフライバシーに配慮しつつ、地域住民が散策できるような整備を行っていく。	—
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)	—			—
	野生生物・絶滅危惧種	—			—
	生態系	○			3
	その他	—			—
生活環境	ユニバーサルデザイン	—	当該河川はこれまでたびたび浸水被害が発生していることから、早急な河川改修と実施し、治水安全度の向上を図る。また、事業実施に伴い発生する建設廃棄物の低減に努める。住宅に近接している箇所においては、工事中の騒音・震動への配慮を行う。	河川改修の実施により、浸水被害の解消が期待できる。掘削土の再利用を図る。やぶ草の処分の建設廃棄物の低減を図る。住宅に近接している箇所の工事にあたっては低騒音・低震動型の施工機を採用する。	—
	水環境・水循環	—			—
	大気環境	—			—
	土壌・地盤環境	—			—
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			4
	化学物質・粉じん等	—			—
	電磁波・電波・日照	—			—
	その他	○			4
地域個性・文化環境	景観	○	当該河川はもとも木が津川を水源とすると考えられている。また、清流運動等の河川愛護のポテンシャルが活発に活動している。地元市町村が協働し、支援する「山城の清流事業」が実施されている。	河川改修にあたっては治水安全度を向上を図りつつ、流域が持つ歴史や文化、景観、自然環境を保全し、良好な河川環境の整備を図る。また、地域の行事やレクリエーション、水遊びや学習の場などとして利用できるように河川空間の確保・保全に努める。	3
	里山の保全	—			—
	地域の文化資産	○			3
	伝統的行祭事	—			—
	地域住民との協働	○			4
	その他	—			—